香美市立美術館 アートの窓

アートアワードコレクションより
― 美の挑戦者たち ―

11月5日（土）～12月18日（日）
休館日／毎週月曜日（祝日の場合、火曜日が休館）

香美市立美術館では、**美の挑戦者たち**として、アートアワードコレクションから多彩な現代美術作品を展示します。これは、中津徹さん（株式会社インターナカツジーンズファクトリー社長）の長年にわたる芸術支援活動により収集されてきた美術コレクションです。

アートアワードとは、衣料品店を展開するインターナカツが平成15年から20年にかけて5回開催した現代美術のコンクールです。これは、地方からの文化発信、現代美術のアーティスト発掘を目的としていました。

アーティストたちは、高知市文化プラザかるぽーとを会場に、1週間にわたり公開制作やパフォーマンスを繰り広げ、若手作家たちの貴重な戦いの場となりました。このように、地方企業でありながら全国に向けて文化を発信する姿勢が評価され、現在のコレクションが形づくられています。

本展の見所のひとつは、国際的な評価の高い森村泰昌の作品で、森村本人が名画の中の人物になりすまし、その絵の意味を明らかにする写真による表現です。また本県出身の**合田佐和子**の絵画には、美しさの中に妖しい魅力があふれています。

本コレクションの作品が一堂に公開されるのは今回が初めて。分かりにくいと言われる現代美術に親しむ良い機会になれば幸いです。

（館長・都築房子）

▲『私の中のフリーダ（イバラの首飾り）』／森村泰昌

吉井勇記念館だより

おしゃべりカフェ 『吉井勇と猪野々を語ろう』

吉井勇にとって猪野々は、彼の心を癒やし、再起するきっかけとなった地です。

おしゃべりカフェ『吉井勇と猪野々を語ろう』は、当館館長と学芸員、地域の方、参加者の皆さんで、勇の猪野々での心境や詠んだ短歌などを通じて、癒やしとなった猪野々の魅力について語り合うイベントです。

短歌、文学、食、猪野々のくらし、自然などについて、一緒に語り合いませんか。ぜひご参加ください。

【日時】 12月3日（土）
14時～15時
※13時10分より学芸員による展示解説（要入館料）
【場所】 猪野々集会所
（吉井勇記念館隣）
【参加費】
無料（お茶・菓子付き）
【定員】 20人 ※先着順
【送迎バス】 ※要予約
香美市役所本庁舎より、JRバス美良布駅経由。
行き 12時30分発
（美良布駅12時50分）
帰り 15時15分発

吉井勇作品紹介 ～秋～

ひさびさに土佐のうま酒酔まばやと
爐（ろ）に火を焚けば心しずけし

〔解説〕 歌集『天彦』には、猪野々隠棲時に詠んだ短歌が多く収められています。

その中の『爐邊の友』という章には「わが草庵を訪ひ來し友の誰彼をおもふ」という言葉が添えられており、友人や地域の人々との交流や、それに対する勇の心情をうかがうことができます。

◆**問い合わせ先** 吉井勇記念館 ☎58・2220

図書館だより 市立図書館

◆**読書週間**
【期間】
10月27日（木）～
11月9日（水）
【標語】 いざ、読書。

◆**ライブラリコンサート**
【日時】 11月20日（日）
13時～17時
【場所】 本館1階
【内容】
ジャズ演奏・読み聞かせ
※通常館内は飲食禁止ですが、当日に限り持参した飲み物を飲むことができます。
【問い合わせ先】
本館☎53・0301

◆**香北地区文化展**
【日時】
・11月5日（土）
9時～16時30分
・11月6日（日）
9時～15時30分
※おはなし会の時間は、10時30分～11時と13時30分～14時です。
【場所】 基幹集落センター
【内容】 おはなし会・スタンプラリー・出前ミニ図書館
【問い合わせ先】
香北分館☎59・4550

◆**物部地区文化展**
【日時】 11月12日（土）
1部＝10時30分～
2部＝13時30分～
【場所】
奥物部ふれあいプラザ
【内容】 クリスマスカードづくり・おはなし会
【問い合わせ先】
物部分館☎58・5870

◆**出前図書館**
【日時】 11月23日（水・祝）
12時30分～16時
【場所】 中央公民館（人権フェスティバル会場）
【内容】 山本一力さんの書籍や人権関連書籍の貸し出し
【問い合わせ先】
本館☎53・0301

◆**パネルシアター・エプロンシアター貸し出し**
パネル布やエプロンに絵や文字を貼ったり外したりして表現するお話道具を貸し出します。『ねずみくんのチョッキ』『赤ずきんちゃん』など。
【問い合わせ先】
本館☎53・0301

Pick Up

夜を乗り越える
又吉直樹 著
これまで読んできた数々の小説を通して、「なぜ本を読むのか」「文学とは、人間とは」を考える。芥川賞受賞作『火花』の創作秘話も。

ピカソになりきった男
ギィ・リブ 著
その朝、俺はピカソだった。30年間、贋作を作り続けた男が明かす、美術界の知られざる実態。巨匠になりきるための努力、執念に脱帽。

小やぎのかんむり
市川朔久子 著
親との確執を抱える中学3年生の夏芽が参加した小さな山寺でのちょっと不思議なサマーキャンプ。人の優しさ、親子について考えさせられる感動作。

第10回香美・香南地区短詩型文学振興大会
（9月3日・香南市のいちふれあいセンター）

香美・香南地区文化協会長賞

短歌の部
（選者 岡崎桜雲氏）

特選
この言葉病気が妻に言わすのか
笑顔で吾はただ聴いている　宮地 亀好

優秀
交替の駅に降りたる乗務の女性（ひと）
「のぞみ」の発車にしばし礼（いや）する　古川 安子

優秀
田の畦（あぜ）に刈り残したる鬼百合が
夕風うけて御辞儀をしあふ　公文 正子

佳作
正月の慣に米とゆずり葉を
供えし田圃（たんぼ）も荒らしてしまいぬ　佐々木真里

佳作
胃を切るか切らぬか平静はよそほひつ
花噴きあぐる街路樹に沿ふ　大岸由起子

佳作
被爆者の背にまわしたるオバマ氏の
手の温もりよ世界に届け　中村 定子

俳句の部
（選者 亀井雉子男氏）

特選　炎昼や絶食といふ荒治療　森本 之子
優秀　地下足袋の足は眠らず三尺寝　橋本 昭和
佳作　蝉捕りの子の影過ぎる忠魂碑　樫谷 雅道
高点賞（互選）　鬼やんま少年期乗せやってくる　馬場 英男

※掲載している受賞作品は香美市の方の作品のみです。